

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける
年 度 当 初					
評価項目	評価の具体項目	現状 (令和3年度実績等)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・89.4%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・98%の生徒が正しい身だしなみを実践、93.4%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、マスク着用生活が長引き、大声、笑顔で挨拶する姿を見なくなって久しい。 ・保護者の85%が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」、90%が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・92.8%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・88.9%の生徒が安心して安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・66.4%(70.1%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.46件(3.75件)、一人あたり1.15回(1.17回)(通院等による遅刻も含む()内は昨年度)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、外部機関と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ522件(昨年度450件)であった。	・商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている生徒が90%以上である。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた行動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上である。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上である。	・鳥商で学びのスタイルを身につけさせることで、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・学校内外での望ましい行動や態度が学校全体に好影響をもたらし、その結果地域社会からの信頼を得ることができることを意識させる。	・鳥商に入学して良かった生徒(92.4)%、学校行事等に積極的に参加し集団に貢献している生徒(92.7)%、安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒(94.8)%。 ・規範意識はどの生徒も高い。基本的生活習慣、身だしなみなどで逸脱した生徒はなく、多くの生徒は落ち着いて学校生活を行っている。 ・執行部を中心に、学校行事や校則について意見を集め、改善に取り組んでいる。 ・1年生に対してビジネス基礎研修を4月に実施。日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。 ・中学生体験入学、オープンスクール、鳥商デパートでは、生徒が中学生やその保護者に対し、鳥商生としての自覚と誇りを持ち、鳥商の説明を行った。 ・保護者の84%が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」、「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・5月(全学年対象)及び9月(1・2年対象)のhyper-QUアンケート結果と日常の観察を基に、教育相談員等と連携して、気になる生徒への対応や支援を確実に行っている。 ・生徒の抱える課題の多様化、複雑化をうけ、必要に応じてスクールソーシャルワーカーを通じた生徒の支援を行い、関係行政機関等とも連携し、効果を上げている。 ・人権教育LHR・講演会により、人権問題への自らの意識や捉えの振り返りができた。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。				・行事の実施に際し、生徒一人一人に鳥商生としての自覚を持っての行動を促し、学校の活性化に貢献することを意識させる。 ・学校生活アンケート、QUアンケートを引き続き実施することで生徒の現状を把握し、必要に応じて外部機関と連携する。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や延期を余儀なくされる中、第28回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。 ・講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等工夫して実施し、特に進路志望別ミニ講演会は生徒の進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対しての小論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1.2年生ではスピーチ月間を設け、自分の意見を発表する経験を積ませた。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画実施され、生徒が適切な進路選択を行っている。 ・各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100%である。	・令和4年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って事業・行事を実施する。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施し、表現力を豊かにするための知識を増やす取組を進める。 ・3年生進路希望者への小論文指導、面接指導については、教職員で担当を決めて実施する。就職希望者については社会人による面接指導を継続して実施する。	・1年についてはLOCUS(企業の課題研究事例から自己を見つめる総合探究プログラム、専門業者の企画)を昨年度から導入。10月7日に地域企業・事務所を予定通り訪問し、興味関心を引き出した。 ・2年生については東京への研修旅行が2年ぶりに実施された。受入が可能な学校を探し、志望別研修を実施し、進路意識が高まった。 ・3年生の就職希望者に対する青年会議所の面接指導を実施。就職試験に向けて意識の高揚やコミュニケーション能力の育成にもつながった。また、3年生に対する小論文指導、面接指導は全学年の教員で実施し、実践力応用力の育成につながった。 ・就職内定者を対象に、外部講師を招いてビジネスマナーに関する講習会を実施し、充実した職業生活を送る基礎となった。 ・進路LHR(3年生に学ぶ)進路学習デーなどの行事により、多くの生徒が3学期以降進路意識が高まった。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が121名(97名)であり取得率は65.5%(51.1%)。1級未取得者は0名(5名)。全員の1級取得は鳥商史上初めてのことである。なお、1級7種目取得者1名(1名)。商業経済検定全科目合格14名(5名)、情報処理検定1級プログラミング部門満点合格1名。()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月)を実施。 ・1.2年生対象に4年制大学見学会(12月公立鳥取環境大学)を実施。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画実施され、生徒が適切な進路選択を行っている。 ・各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100%である。	・検定実施日に合わせて検定週間を設定する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進路希望者対象の平日補習を実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学研修(鳥取大学、公立鳥取環境大学)への参加を進める。 ・全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続して実施する。	・6月についてはLOCUS(企業の課題研究事例から自己を見つめる総合探究プログラム、専門業者の企画)を昨年度から導入。10月7日に地域企業・事務所を予定通り訪問し、興味関心を引き出した。 ・2年生については東京への研修旅行が2年ぶりに実施された。受入が可能な学校を探し、志望別研修を実施し、進路意識が高まった。 ・3年生の就職希望者に対する青年会議所の面接指導を実施。就職試験に向けて意識の高揚やコミュニケーション能力の育成にもつながった。また、3年生に対する小論文指導、面接指導は全学年の教員で実施し、実践力応用力の育成につながった。 ・就職内定者を対象に、外部講師を招いてビジネスマナーに関する講習会を実施し、充実した職業生活を送る基礎となった。 ・進路LHR(3年生に学ぶ)進路学習デーなどの行事により、多くの生徒が3学期以降進路意識が高まった。
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・毎朝食摂取91.6%、日ごろから運動を心掛けている生徒77.1%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い。85.3%の生徒は生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えている生徒が46.6%あり、就寝時間が遅いことが常態化している。(学校生活アンケート)。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガをしないうる体づくり」をテーマに、理学療法士による健康教育LHRを9月に実施。 ・体育祭(7月)での商高体操、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施。	・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が85%以上である。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・全生徒が部活動に加入し、学習との両立に努めている。 ・部活動がバランスのとれた人格形成の場になっており、それぞれが自ら設定した目標に向けての努力がなされている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上である。	・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識付けのための健康教育LHRを実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。	・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が(91.9)%。 ・新型コロナウイルス感染症による臨時休業が2回(4月、7月)。感染拡大状況に応じて行事の実施方法や日程の変更を行い、できるだけ行事が中止とされないようにした。 ・学校保健委員会の協力で「コロナ禍における基本的生活習慣の乱れ」を指摘された。 ・長期休業明けのアンケートで悩みを持った生徒の相談に乗り、実際に担任に相談をするきっかけとなっている(春休み・夏休み明けに実施)。 ・健康教育LHR(けが予防の体づくり)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため3年のみの実施としたが、3年間の実践により、生徒の体づくりに対する意識は向上した。 ・体育祭は熱中症予防のため半日開催としたが、集中して取り組めた。何より、生徒が生きて活動できているため、続けていきたい。しかし、体力テスト等の結果を見ると、鳥取県平均を下回っている種目が複数あり、運動習慣がない生徒が増えている。
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年1666分(140分)、2年158分(145分)、3年180分(129分)。10月平常時の自宅学習時間は1年50.1分(44.9分)、2年29.6分(50.6分)、3年35.6分(44.9分)であった。()は昨年同期。 ・オンラインツールの活用により生徒の学習習慣が変容しつつある。 ・2月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。	・全生徒が部活動に加入し、学習との両立に努めている。 ・部活動がバランスのとれた人格形成の場になっており、それぞれが自ら設定した目標に向けての努力がなされている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上である。	・学校全体で年間2回の自宅学習時間調査を継続実施する。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し、授業力向上を図る。	・定期考査期間を除く家庭学習時間は1年48.4分(50.1)、2年43.2分(29.6)、3年30.7分(35.6)。定期考査前、検定前の時間数は多いが、通常時、自宅学習に取り組む生徒が少ない。 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時にリモート授業を実施した。リモート授業は参加しやすい一方で、授業内容の理解については限定的である。 ・コロナ感染関連による出席停止の生徒に対して、学習保障のためリモート授業を極力実施し、生徒の安心につながっている。 ・1年生に観点別評価が今年度よりひとまず円滑に導入された。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶、言葉遣いができる。 ・第29回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ・図書などを利用した情報収集を適切に行っている。 ・グローバル社会を実感できるような異文化に触れる機会を年に1度は持っている。 ・全商英語検定の取得状況が目標値を上回っている。	・定期的な身だしなみ指導だけでなく、学校生活全般で適切な着こなし、挨拶、言葉遣いの指導を行う。 ・学校運営協議会で意見や提言をいただく。	・ほとんどの生徒が挨拶できており、チャイム前行動ができるようになっているが、マスクのせい、笑顔の挨拶ができている生徒が少ない。 ・第1回学校運営協議会で、部活動を通して身につけて欲しい力、鳥商ならではの特色を生かした学び、分かりやすい目標値の設定などについて、第2回学校運営協議会では鳥商デパートと校則の在り方について提言していただいた。
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・第28回鳥商デパートを生徒の家族と学校関係者に限定して開催し、全学年生徒が参加した。売上5,321,734円、来場者数1,455人であったが、高い客単価が売り上げアップの要因となった。2月18日に成果発表会を開き協力企業、学校運営協議会委員に講評をいただく予定だったが、コロナ禍のため発表会は中止。発表動画を在校生に見せる形とした。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ4,172冊(3,520冊)。一人あたりにすると8.3冊(6.5冊)と昨年度と比べて大きく増加した。授業での利用時間数は307時間(444時間)であった。()は昨年同期。	・場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶、言葉遣いができる。 ・第29回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ・図書などを利用した情報収集を適切に行っている。 ・グローバル社会を実感できるような異文化に触れる機会を年に1度は持っている。 ・全商英語検定の取得状況が目標値を上回っている。	・全校生徒が鳥商デパートの運営に関わることで実践力を高めることができるように仕掛けをしている。 ・鳥商手帳の活用方法を考える。 ・図書館の効果的な利用を工夫する。	・鳥商デパートは、昨年度同様、生徒の家族と企業等の関係者のみで開催した。売り上げは5,317,234円、来場者は1,936人。今回は在校生が中学生に対して会場案内をするなど、本校の魅力発信に一役買った。2月16日に成果発表会を開き、地元企業の方から次年度開催に向けての助言をいただいた。 ・年次が進むごとに、鳥商手帳を活用している生徒が増えている。 ・来年度全員がChromebookを利用するので、ジャンパネット(オンライン辞書辞典検索サイト)、朝日けんさくくん(新聞記事検索閲覧データベース)等の導入を決めた。
5. 業務改善の取組	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身についている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校とのオンライン交流を4月より8回実施し、毎回約20名が参加した。 ・全商英語検定1級取得者7名(7名)、3級合格率90%(83%)であった。()は昨年同期。 ・1年生コミュニケーション英語Iで習熟度別授業を実施。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との交流を推進する。 ・全商英検1級、実用英語検定の準2級以上の受検を勧め、生徒の英語運用能力を向上させる。	・エセックス高校との月1回のオンライン交流を続けている。また、その交流参加者で日本在住のエセックス高校卒業生を鳥商デパートに招き、対面で交流した。他に2つ交流を行った。(鳥大留學生…3年授業内、対面、モンゴル・ボルノール町中…ESS、オンライン) ・2回の全商英検合格者数は1級9名(7)2級47名(40)3級151名(161)。※()内は昨年度数。 ・1年英語コミュニケーションIで習熟度別授業を行い、パフォーマンステストなど個別対応の指導を行っている。 ・英語が苦手な生徒が多く、全体的な英語運用能力が向上しているとはいえない。	・エセックス高校とオンライン交流を継続しながら、幅広く生徒に声を掛け、多くの生徒が関われるようにしていく。 ・鳥大留學生との交流のように、生徒が外国人と交流する機会を作り、実施において支援をしていく。 ・授業では基礎学力向上対策を充実させ、全商英検の補習も行う。 ・4年制大学及び短大希望者に実用英検受検を促すことを検討する。
	校務分掌・任務分担の見直しを実施する。 長時間勤務者を解消する。	・業務時間外は留守番電話での対応とし、職員の負担が軽減された。 ・業務アシスタント、特別教育支援員の配置により、当該分掌職員の負担が軽減された。 ・校内掲示板やGoogleClassroomの活用、会議等のオンライン配信により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。 ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・月当たりの時間外業務は令和2年度比で11%増。時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・時間外業務月45時間以上勤務者をゼロにする。	・部活の方針の徹底と、部活動の月別計画、実績表を活用して、業務の見直しを行う。 ・生徒の出欠管理等についてNotesで行うように設定し、業務の効率化が進んだ。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。	・年度途中でも躊躇せず、校務分掌、任務分担の変更を行ったが、一部の業務の偏りは解消できず、時間外業務削減が実現していない。 ・各種アンケート類はGoogleFormsで実施できており、集計等の時間が短縮された。 ・生徒の出欠管理等についてNotesで行うように設定し、業務の効率化が進んだ。 ・顧問に月別計画・実績を丁寧に確認・指導しており、部活の時間外業務は多くない。 ・勤務時間の延長・短縮等で時間外業務を極力減らしているが、昨年度比8%増である。また、月45時間以上の職員が延べ58人で、昨年度比14人増である。(4月～1月)